

児童が受け身になっていた  
社会科の指導

児童の調べ学習が、知識や理解に  
つながらない

児童が、学習内容と自分との  
かかわりをとらえにくい

## 児童の地域社会への理解を深める社会科指導の工夫 ～単元構成と資料提示の工夫を通して～

自己課題解決策のための授業実践 小学4年 社会科 単元名「地域の先人のはたらき」

### 解決策1 単元構成の工夫

全体での学び・少人数での学び・個に活かす学び

単元全体の課題をつかみ、  
具体的な自分の課題を設定

少人数(課題別班)での追究し、  
知らせ合い、単元全体の課題を解決

これからの地域を考え、  
学習したことを個人でまとめる

単元全体の計画をのせたふり回りカードで自己評価

### 解決策2 各学習過程における資料提示の工夫

【課題を見いだす資料提示の工夫】

児童の思考の流れを想定し、資料を活用(ビデオ・実物投影機・プロジェクタ活用)



#### 児童の気付き

発展の背景には先人のはたらきがある  
太田市は工業都市として発展した  
課題「工場のまちなったひみつを探ろう」  
課題解決の手がかりは中島知久平

#### 活用資料

太田市の昔の写真と現在の校区内のビデオ・上毛かるた  
・太田かるた  
工業製造品出荷額のグラフ 工業団地分布図(拡大紙)  
ビデオ「飛行機王 中島知久平伝 はばたけ、夢、大空に」



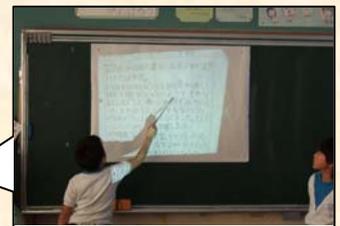
【各自が追究するための資料提示の工夫】

調べる手段として、学校では、ビデオ、図書、インターネットを活用

- ・本単元にかかわる Web ページのリンク集の作成と活用
- ・図書室で一冊しかない写真集をデジタル化して活用(著作権の手続き)

少人数で調べたことをA4サイズの報告書にして、実物投影機とプロジェクタを活用して報告会

【まどめに活かす資料提示の工夫】



単元全体の課題解決

考える視点(インタビュービデオ)  
「工場のまち」に関わった富士重工の取組

「これからの太田」

自分の地域を見直す  
地域の未来を考える  
地域への誇りや愛着

### 成果と課題

○地域素材を探し出し授業で活かしたことや調べ学習の目的や計画を明確にしたことで、児童の課題解決に的確な助言ができた。本実践での「学習していることが自分とどうかかわるか」を児童に意識させることが大切であると実感した。

○視聴覚に訴える資料提示は、児童にとっては集中度が高い。ねらいを明確にしたICTの活用を工夫することで、児童の「学ぶ楽しさ(できる・分かる)」につながると思われる。

○よい資料があっても発問や活用の場面により、児童の思考は変わる。「何をとらえさせるためにどんな発問でどう活用するか」をさらに明確にして資料を指導に活かすよう努めていきたい。



ふり  
回り  
カード  
より

個人  
新聞  
より

・友達の発表から、富士重工の六つの星の意味が分かった。中島飛行機がもともになっている工場だった。(A4報告書発表)  
・飛行機についてコンピュータで調べたら、いっぱい資料があった。戦争にも飛行機が使われていたことが分かった。  
(デジタル化資料・リンク集)

・中島飛行機が太田市にできて、戦争が終わってから富士重工に受けつがれて工場のまちなったことが分かった。  
・富士重工が環境を考えて人に役立つものをつくっていることが分かった。これからの太田は、環境にやさしい工業をめざしてほしい。

担当指導主事 教育情報推進係 小池 千秋